

左へ左手を右へと移動させて、腕を交叉させる。右のものが左へ、左のものが右へと「交わる」のである。

鏡 左手の五指の指頭を上にしし掌を顔に向け（手鏡を見るように）右手の五指の指頭を上にしし掌を前向けて後頭部にかざす（後の髪具合を鏡で見る）。合せ鏡を表わす。

係員 (イ)「委員」と同じ手まね。(ロ) 責任——男性（或は女性）

柿 まるい物（果物）を掴むように五指を彎曲した右手を口もとに持って行き、噛じる真似。

鍵 五指の指頭を上にしし掌を前向けた左手甲の上で、右手で鍵をねぢる真似。

鉤 人差指をカギ形に曲げる。
限り (イ)「終る」と同じ手まね。
(ロ) 「以下」とも同じ手まね。

書く 右手で、筆かペンなどを持つようにして、字を書く身振りをすればよい。

覚悟 諦^{あきら}める——決心。

隠くす 左手を少し挙げて、その脇の下に右手をさし込むようにする。袖の下に物を隠くす身振り。

学識 研究——識^しる（賢い）

格別 拳を下向けにした左手の腕下膊部の上に、右手の親指と人差指の指頭を合わせたので、下から人形を描く。昔（明治時代）の日本陸軍の特務曹長の制服の袖の上に逆V字の印しがあったことから、この「特」を象したもの。即ち「特に」「特別」「格別」の手まねになった。

学問 「学識」と同じ。

学力 学問——腕利き。

家業 家——高い（或は「仕事」）
隠れる 上体を右斜めに屈がめ、両手で顔

を被い隠くす身振り。

可決 賛成——決定。賛成は、誰れもがするよう右手を挙げて賛意を表する身振り。決定は、「決決」と同じ手まね。

掛算 両手の人差指で×字形に交叉して、掛算の符号を模写する。

過去 (昔、以前) 五指の指頭を上にしし掌を内側にした右手を右肩越しに後方へ押しやる。体より後方を過去とする。



傘 傘の柄を 持てさすように拳にした両手を上下に重ね、上になった手を

傘を開らくために、まっすぐに上げて行く。

笠 頭の上で、両手掌を向い合わせ互の中 指の指頭をつけ△形をつくり (笠の形) 次

に、両手夫々の五指の指頭を集め合わせて左右夫々の頭から頬を伝い降して、顎の下で、顎紐を結ぶ真似。

火山 胸の前で掌を下に向けた手で山の形を描いて (片手にても両手にても可)、次にその山の頂上の位置の空間に、掌を右に向け、指頭を前方にさした五指をまるく彎曲させた左手 (火口) の中を下から右手の拳をくぐらせて上に出すと同時に拳の五指をぱつと開いて更に上へ上昇させる。火口から火を噴き出した描写。

家事 家——仕事

火事 家——火 (燃える)

風 五指の指頭を上にしし掌を前向けにした両手を右肩辺りか、斜め左下へ掌を下に向けながら掃き降す。風の吹き降す様。

舵 (槳) (ハンドル) 丸ハンドルを両手で廻わす真似。或は枝ハンドル (自転車ハン